減災ニュース No.30

2015年２月５日　減災プロジェクトチーム

災害発生時のトイレ問題（食事前には読まないで）

先日震災救援所の想定問答で「トイレがてんこ盛りになってる。なんとかして」という問題が提起され、スタッフの一員として非常に気になっておりました。過去の震災記録を見ても同様の問題がのっており、どうやらけっこう悲惨で切実な問題。そこで今回は災害発生時のトイレに関するお勉強です。

人間ってどのくらい出すの　平均で１日に、小は１．２ℓ、大は 130ｇ。救援所の収容人数は区全体で６６ヶ所、８万６千人だから救援所１か所 1300 人、ってことは・・・すごい量ですね。興味のある方はご自分で計算してみてください。これ以上は書きたくないです。

断水したらトイレは使えないよね　下水道が大丈夫なら、バケツ等で水を流せばＯＫ。断水に備え、お風呂の水は常に満水にしておくといいですね。火災時にも活用できます。ちなみに阪神淡路大震災では電気・電話は 10 日、水道は１ヶ月、ガス・下水道は３ヶ月で復旧したとのこと。　発災直後の救援所は立上げと被災者受入れで戦場状態と思われますが、トイレ用水はてんこ盛りを避けるためにも優先して手配する必要がありそうです。こればっかりは我慢できないので。

下水道が壊れていたら　下水道が壊れていると水洗トイレは使えません。ニュースなどで下水道破損地区の情報を把握するよう努めてください。下水が使用できないとわかったら、ビニール袋などに入れて口を堅くしめ、場所を決めて保管しておくしかありません。

上下水道の耐震化工事　直下型地震に備えライフライン耐震化を進めているとのこと。上下水道の処理施設自体の耐震化と、配管や継手を柔軟なものに交換などの工事が進められていますが、基幹管路で上水道 35%、下水道 55%とまだまだ時間がかかるようです。

仮設トイレは設置されないの　阪神淡路では発災直後の混乱の中、順次７千基近い仮設トイレが業者より無償で提供され、救援所に設置されたそうです。また、バキュームカー、操作要員も他府県から提供されたとのこと。当時の教訓から、今なら更に効率的な対応体制が期待できると思われます。

救援所備蓄の仮設トイレ　マンホールトイレ、ペールトイレ、組立て式仮設トイレ、簡易トイレなどの備蓄はありますが、トイレ清掃用品の備蓄はないようです。しかしゴム手袋とかトイレブラシなどは無いと困るなあ。鼻つまみ用洗濯バサミも。

家庭での簡易トイレ備蓄　在宅避難が可能なら断水でも自宅のトイレが活用できます。必要なものは凝固剤だけ。100 セット２～３千円程度です。ビニール袋とセットの物もありますが、袋は 100 均で充分（厚手黒色推奨）。トイレにビニール袋をセットし、使用後に凝固剤をかけて袋の口をしばるだけです。万一に備えて家庭でも備蓄しておけば安心ですね。

その他知っておきたいこと　①バケツ、洗面器などもビニールをかぶせトイレ代用として使用できる②手指消毒には家庭用漂白剤を薄めて消毒液を作る③トイレに行けないからと水分摂取を控えてはいけない。我慢もしない④赤ちゃんのミルクは沸騰後の湯冷ましで作る⑤地震後にトイレに行く時は、閉じこめ防止や防犯上二人でゆき、鍵はかけず相手に扉をおさえてもらうようにする。

減災ニュースに関するご要望、お問い合わせ　　松尾　5932-0083